

## くり推奨品種「杉光」の特性

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部  
担当者：大崎伸一

### 研究のねらい

本県のくり栽培は、西南暖地としての地の利を活かすべく、近年、早生品種のウェイトが高まっている。このような中で、「国見」は早生種としては大果で収量も多く栽培しやすいことから作付け面積が年々増加し、くり栽培面積全体の13%、483haとなっているが、近年、市場サイドの食味や風味といった果実品質の面での評価が低くなってきている状況にある。

このため、これに替わる優良品種を選定し、早生ぐりの品質向上を図る。

### 研究の成果

< 来歴 >

「杉光」(すぎひかり)はくりの優良探索事業(平成5~9年)により既存品種と熟期や品質が異なると考えられる系統について、県内外から収集した50個体の中から選抜したものである。本品種は矢部町杉木地区で昭和50年代に共同購入した苗木の中に混入していたと言われている。「国見」と比較して次のような特性を有する。

- 1 熟期は「国見」とほぼ同じで、本県の平坦地域で9月上旬に出荷が可能である。
- 2 樹勢は「国見」より強く、樹姿はやや立ち性である。
- 3 果実の大きさは「国見」とほぼ同じかやや小さいが、日本ぐりの中では大果である。果皮色は「国見」よりやや淡く、淡褐色である。
- 4 果実の肉質は「国見」がやや粘質であるのに対し、やや粉質である。比重は「国見」より重く、食味は優れている。
- 5 収量性は「国見」より高く、しかも健全果率が高いため生産力は高い。

普及見込み面積：500ha（「国見」の全部に替えて普及見込み）

### 普及上の留意点

- 1 樹勢がやや強いので、幼木期は軽いせん定にとどめ、結実の確保に努める。
- 2 クリタマバチ抵抗性は「国見」「筑波」より弱い傾向があるので、天敵が少ない地域は細密せん定を行う

表1 生育、収量及び果実品質

品種名	収穫期			収穫果		うち健全果		1果平均重 (g)	果皮色	果実比重 (塩水選)	果実肉質
	始	盛	終	果数 (個/樹)	果重 (kg/樹)	果数 (個/樹)	果重 (kg/樹)				
杉光	8/30	9/8	9/16	306	7.92	246	6.50	27.9	淡褐色	1.058	やや粉質
国見	8/31	9/7	9/15	237	6.36	147	4.11	28.6	褐色	1.043	やや粘質

注) データは平成8～11年産の平均値

表2 選果実績

品種名	健全	不良果内訳				
	果率 (%)	虫害 (%)	裂果 (%)	たんそ (%)	未熟 (%)	その他 (%)
杉光	76.0	14.3	6.4	1.3	2.4	0.9
国見	60.4	15.2	4.6	0.9	19.8	1.1

表3 食味評価

品種名	風味	肉質	甘み	総合評価
杉光	3.6	4.4	4.3	4.1
国見	2.6	2.9	2.7	3.0

注) 風味並びに甘みは 5:良、4:やや良、3:普通、2:やや不良、1:不良、肉質は、5:粉質、4:やや粉質、3:普通、2:やや粘質、1:粘質の5段階評価。パネラー7名。



写真1 杉光の果実